

令和5年度 看護力向上支援事業

慢性呼吸器疾患看護活動報告



国立病院機構 いわき病院
教育担当看護師長 高橋 佑果

1. 当院の課題

(現状) 聴診など観察を行わずルーチンで吸引や体位変換を実施



呼吸ケアに対するアセスメント力不足

2. 目標

- ・ 根拠をもって吸引することができる。
- ・ 根拠をもって体位変換ができる。

認定看護師による勉強会と病棟ラウンドに重点！

3. 支援前後の変化

<ケース1> 神経難病で24時間人工呼吸器装着中の患者。

毎月、肺炎を繰り返していた。

前：体位ドレナージは聴診せずルーチンで実施。経腸栄養の注入は10度前後。カフアシストは体位ドレナージ中ではなく時間が空いた時に実施。



後：体位ドレナージは聴診・視診・触診して実施。ドレナージ体位を見直し。可視化できる表を作成し評価（患者状態の評価・スタッフの意欲向上）
注入時の角度の統一



介入後、肺炎を発症していない！

中心メンバー「他スタッフにも伝えて、他患者へも実践したい」



<ケース2> SpO2値が低下 = 酸素投与していた重症心身障がい児（者）

前：SpO2低下するとアセスメントすることなく酸素投与と吸引



後：リハビリと患者の状態に合ったドレナージの体位を相談し実施
体位ドレナージや吸引前は必ず聴診



酸素は持続使用から短時間使用へ変化。口腔内吸引のみの場合もあり。
胸部CT画像上、所見が改善。主治医より「良くなっている」

<酸素使用回数>

	各勤務帯使用回数	5時間以上	1~4時間以内
5月	18	18	0
6月	8	8	0
7月	13	7	6
8月	11	6	5
9月	9	8	1
10月	6	1	5

チームスタッフ「酸素の回数減っているね」



チームで継続して実践

病棟ラウンドの様子



直接聞いたスタッフの声

頑張れば
頑張っただけ
効果があるんで
すね。実感しま
した。

教えてもらった
事を、他のス
タッフとケアに
入った時に教え
ています。

今回の看護力を
きっかけに私も
認定看護師目指
してみようと思
います。


他の患者さん
へ教えても
らったこと、
やっていますよ。

疑問に教えてく
れるから、すご
く助かりました。

他のスタッフへの
意識を変えていき
たい。巻き込んで
いきたい。

患者さんが肺炎に
ならなかった。嬉
しいです。意味が
あるんだと思いま
した。

よく分からないとか、
自信がないままやる
怖さを知りました。
今は、自分で勉強
して安全にやれてい
ます。



日々の看護実践に対する
モチベーションアップ！

リハビリでも実践で
きる事が沢山ありま
した。勉強になりま
した。(リハビリス
タッフ)

評価： 目標①、② とともに達成

4. 今後の課題

根拠をもち呼吸器看護を実践していくために

今、継続して
出来ることを実行♪

①今回学んだ事（根拠をもった吸引や体位変換）を継続する。

②今回、直接関われなかった看護師を巻き込んでいく。
（支援する。）



5. 今後継続していくために

1) 今回、関わる事ができなかった看護師を巻き込む！

①認定看護師の研修資料（確認テスト）とDVDを使用し全員への周知

②対象患者への看護を継続

今年度末に各部署でリハビリスタッフを交えて評価カンファレンス

③今回、主となって関わった看護師を中心に他患者への看護実践

2) 次年度の院内研修で呼吸器看護の内容を企画

（今回の病棟ラウンド内容を参考にする）

↓

1人でも多くの看護師が呼吸ケアに自信をもてるよう支援

→ 病院理念「患者本位の医療を提供」